

20代女性向けファッション雑誌における言語の特徴

—外来語の場合—

勝 田 耕 起

0 はじめに

本稿で問題にするのは、次のような例である。

- ・好感度満点のページェのニットに、ティアードの裾をつけたワンピースは、デイリーに大活躍。忙しい朝でも、愛され感たっぷりのコーデがこれ一枚で決まる！

これは『MORE』2011年1月号（2010年11月28日発売、集英社）36ページにあった一文である。一見してカタカナ表記の外来語が多いが、漢語もあるし和語もある。そしてそこには、想定された読者ではない一般男性（筆者等）には意味不明のもの、単語の意味は想像できるが日常会話では聞いたこともないもの、など様々な要素が入り交じって一つの文体を成しているようである。このような女性誌の言語を日本語学的に分析し、現代の女性語について捉え直してみるのが本稿の狙いである。

語彙研究の一つの方法として、位相語彙研究がある。警察関係者・法律関係者などの職業語、学生語、といった特定集団に特有の言葉を究明するもので、女性語の古いものとしては室町時代の「女房ことば」や明治時代の女学生の言葉の研究があり、その実態と現代へのつながりが明らかになっている^(注1)。

そして現在、女性語についての概観には大抵、女言葉が無くなってきた、という指摘がある^(注2)。その際の指標として挙げられるのは「～だよ」「～わよ」のような文末形式の使用・不使用で、そこに異論はないのだが、冒頭のような文を見るにつけ、あるいは大学で女子学生と、自宅で妻と話をするにつけ、男女差が小さくなっているとは到底思えず、従来あまり言及がなされてこなかった使用語彙の違いについて追究する必要があるのである。

さて調査は、上記『MORE』誌51ページまでの記事の全ての文字列を対象として（企業広告は除く）、まずは筆者の内省で自身の使用語彙とならないものをピックアップした。想定される読者は20代女性一般。雑誌の言葉がその読者の使用言語をダイレクトに反映するとは思われないが、読者に理解されるように記し、それ（ファッション業界用語を含む）が読者に使われるようになるという流れは考えられる。

採集した用例は、語種（外来語・漢語・和語）によって大きく分類し、次に各語の形と意味の特徴について考察した。本稿はその外来語編である。

1 略語

拍数の多い外来語を、3拍あるいは4拍に短縮して略語を作る方法は日本語に一般的であり、例としてはテレビ（←テレビジョン）、マスコミ（←マスコミユニケーション）などが定着したものとして挙げられる。ところが女性誌には、一般に原形（非短縮形）で使われているものを3拍に短縮した例が頻出する。「アクセサリー」「コーディネート」「カーディガン」「バリエーション」がそれで、各略語の具体例は以下の通り。いずれも、収録語数が多め（7～8万語）の一般的小型国語辞典に立項されていないものである^(注3)。

【アクセ】

- ・アンティーク加工を施したアクセはこなれたおしゃれ感たっぷり！ P17
- ・ユニークなアクセで有名なブランドが…… P19
- ・アクセのほかオルゴールつきの箱など楽しい仕掛けが盛りだくさん♪ P19
- ・『アーカー』×『ラドロー』のアクセ。P19
- ・風間ゆみえさんが手がけるアクセブランド『Chang Mee』 P28
- ・ボブ×極太ヘッドアクセ P45
- ・丸みボブ×極太アクセのバランスが旬！ P45
- ・ゆる編みやりボンアクセなど、冬は甘めがトレンド。P46
- ・「レースのヘアアクセは、実はブローチにゴムをつけたもの。」 P47

【コーデ】

- ・モードなエッセンスを取り入れた大人かわいいコーデの達人。P17
- ・女度高い赤茶のレオパード柄をコーデのスパイスに。P29
- ・ラブリーなワンピースにショート丈ニット、リラックス気分のコーデには、P36
- ・シンプルな黒コーデに、ブルーのビーズカチュームを主役にしたコーデ。P48
- ・衿もともボリユミーにデザインされたふわふわファーつきのポンチョ。ほどよいフィット感を生かし、ロングスカートで縦長コーデ。P34
- ・私たちのしたい旬コーデがここにある！ P34-35
- ・ニット×ティアードスカートの大好きコーデを一枚で満喫 P36

【カーデ】

- ・パールをあしらったレディなカーデを、シネマ女優の気分で P37
- ・リラックス気分のコーデには、ブランケットのような大判ストールをカーデ代わりに。P36
- ・人気復活、トラッドの代表格ダッフルコートも、女の子だからこそその赤が最高に可愛い。ざっくりロングカーデとチェックのシャツワンピを重ねた、さらにその上に。P41
- ・シンプルな黒カーデに、ブルーのビーズカチュームを主役にしたコーデ。P48
- ・モヘアカーデ P37

【バリエ】

- ・発売開始から爆発的ヒットのヒートテックシリーズ。バリエもたっぷり！ P27
- ・バリエの多さで人気もアップ 帽子アレンジ P49
- ・「流行の足もとレイヤードも決まるし、色バリエも上品で合わせやすそう」 P27

以上4語のうち、「カーディガン」だけは原形を用いた例があったが、ほかの3語は略語のみであり、(仮に調査範囲を広げて原形が見いだされたとしても)著しく偏っているといえる。

- ・ケーブル編みのビッグカーディガンと、おそろいのニットパンツで、可愛さ

満点のほっこりカジュアル！ P37

またこの4語は、略語形が様々な語種の語基と複合語を構成しており、「黒カーデ」「モヘアカーデ」「極太アクセ」といった色・素材・形状に加えて「大好きコーデ」のように感情表現とまで結びついて、少ない字数に多くの情報を盛り込むことに成功している。

他に、用例数は少なかったが、「プレス」という例があり、これは同じ文脈で出現し、2回目で略語形が用いられている。上の4語よりは略語形の定着度合いが低いことを意味するのかもしれない。

・幸運を呼び寄せるモチーフチャームつきプレスレット。パッケージの色により異なるテーマのプレスが3種類ずつ入っているから、お気に入りのひとつを見つけて。P19

2 原形で標準語とは意味用法の異なるもの

調査資料『MORE』の表紙に

・「安い」だけはNO！ ワンランク上を狙え！ 価値ある「安リッチ」服&ブーツ 163

とある。「リッチ」は他に以下の例があり、いずれも形容動詞である。

- ・リッチで華やかなデザインは、ぜひゲットしたい！ P17
- ・リッチなファーコートで上級カジュアルを楽しみたい！ P17
- ・ファーとのコンビがリッチ！ ストール¥31,500 P29

標準語の「リッチ」は

① 金持ち

② 内容が豊富で充実、特に食物にコクがあるさま。「リッチな味のワイン」といった意味を持つが、カギ括弧付きの「安リッチ」という表現は“安いけれども良質なもの、豪華に、高そうに見えるもの”と読むべきであろう。「リッチで華やかなデザイン」や「(ストールと) ファーとのコンビがリッチ」とは視覚的なこと(雰囲気)を述べており、標準語が金銭あるいは内容の豊かさをいうのとは少しずれている。

他には「モード」「スペシャル」「クラッチ」といった名詞あるいは語構成要素があるが、これらもそれぞれに標準語には見られない使われ方をしている。

- ・ モードなエッセンスを取り入れた大人かわいいコーデの達人。P17
- ・ マニッシュな帽子でモードに P45
- ・ アッシュ系のヘアカラーでモードっぽい印象のおだんご。P48
- ・ 待ちに待ったクリスマスを盛り上げる、とびきりスペシャルなアイテムをご紹介します！ P19
- ・ ちょっとおしゃれに決めたい日は、クラッチでさりげなくレオパード柄を投入。P28

「モード」は形容動詞化して辞書的な意味の「流行 (の)」ということではなく、もっと限定的にモノトーンを基調としたスタイリッシュなさまで、用例中の形容語を意味素性として考えれば、

マニッシュ [+]、アッシュ系のヘアカラー [+]、大人 [+]、かわいい [-] と記述することができよう。

「スペシャル」はそのまま「アイテム」と複合することが可能なのだが、あえて活用語尾を付けて形容動詞化している。クラッチは「クラッチバッグ」の意。定着した同音異義語（英単語としては同じ）がすでにあるが、動力の伝達を断続する装置を言う自動車用語が、ある形状の装飾的鞆と同音でも、お互い何の不都合もなく衝突はしないのであろう。

3 基礎的外来語とみなせないもの

語彙論には基本語彙という概念があって、これは広範囲の文章・談話において高頻度で使われるものをいう。このような数量的な特徴でもって規定する方法がある一方、日常生活での必要度などから主観的・演繹的に規定される基礎語彙というものがある。外来語においても「基本外来語」のリストアップはなされているが^(注4)、それによれば「リッチ」くらいでも上位300語に入らないので、本稿で扱う外来語を基本語彙／基礎語彙の観点で二分することはできない。そこで、基礎語彙の考え方を踏まえて、上に問題として掲げた「バリエーション」「リッチ」といった老若男女が同じ意味で使用し理解できる語を「基礎的外来語」と呼び、それ以外を非基礎的外来語として区別しよう。これらは、英語の知識も手伝って、この書籍の読者層以外（筆者等）にも意味の推測がある程度可能であるが、使用語彙には全くならないものである。

3-1 女性性・男性性の表現

性別と世代（若年層か青年層か）のプロットタイプを次の4種の語彙で表現し分けている。

- ・パールつきニット&チュチュのガーリーな着こなしに、鮮やかにきかせる真っ赤なタイツ。この冬いちばんおしゃれなレディ。P39
- ・コーデロイのサロペットを、編みアレンジでガーリーに着こなし。P46
- ・フェミニンなサイド結びに、編込みプラスしてさらに格上げ！ P47
- ・シックなネイビーと可憐なレースの上品フェミニンな一枚でパーティーでも注目の的！ P19
- ・ボーイッシュな着こなしも、頭の上に“ぼんっ”と赤をきかせるだけで女らしくなるから素敵。P40
- ・ちょっぴり辛口で、ボーイッシュ。女の子だからこそ可愛くキマる赤が好き。P41
- ・マニッシュな帽子でモードに P45

少女的・少年的の対は「ガーリーな」・「ボーイッシュな」となるが、「ガーリッシュ」という語も日本のアパレル業界で使われているにも関わらず、挙例のようにボーイッシュとは形態的に対応しないガーリーが使われている。一方、フェミニンの対義語は、英語的にはマスキュリン (masculine) だが、これは用いられず、通常軽蔑的な語感（「男勝り」など）を持つと言われるマニッシュが良い意味で使われている。語彙体系としては形態的・意味的な整合性に欠けると考えられるが、これは女性誌における概念としての重要度、外来語としての導入・定着時期などの違いなどが絡んで発生した姿なのであろう。各語についての通時的な用法調査で現状の成立過程が明らかになるだろうと考えられる。

3-2 形容詞形「-ly」 と和製英語

- ・ティアードの裾をつけたワンピースは、デイリーに大活躍。P36
- ・デイリーに使える飾りゴムから、パーティー仕様のヘッドドレスまで P51
- ・ラブリーなワンピースにショート丈ニット、リラックス気分のコーデには、P36
- ・ふわふわのエアリー感が魅力のデカだんご！ P48
- ・ふんわりエアリー感にくぎづけ！ P49

・アンニュイな雰囲気まさに“ドーリーガール” P47

前節に掲げた「ガーリー (girlie/girly)」は、英和辞典の記述によると^(注5)

[形容詞] ①女性のヌードが売りものの a girlie magazine ヌード雑誌

②《話》少女向きの

[名詞] ①《しばしば親愛をこめて》娘、娘っ子、嬢ちゃん

②《俗》売春婦、淫売婦

とあり、この英単語がもたくなって日本のファッション誌で「ガーリーな着こなし」などと言うようになったとは考えにくい。同様に「ドーリー (dolly)」も dollの幼児語で「お人形ちゃん」くらいの語感であり、「人形のようにかわいらしい」という意味で使うのは和製用法と言える。

このような2例は、英語に一応その語形があるので和製英語と決めにくいものだが、ガールやドールからそのような語形を派生させる下地になるのが、「デイリー」「ラブリー」「エアリー」といった形容動詞であろう。

こうして出来たのが和製英語「ポリューミー」である。「ポリューム」は基礎的外来語として物の質量、特に音量を意味することが一般的であるが、女性ファッションにおいては、以下の例のように頭髮や布製アクセサリーの嵩やまつげの太さ（太くするための化粧品をポリュームマスカラという）があることにも言い、部位や素材・形状によらず大きさに関する細工を言い表せる頻出語である。

- ・衿もともポリューミーにデザインされたふわふわファーつきのポンチョ。P34
- ・センターパーツの左サイドを編み込んで、ポリュームシュシュでサイド結びに。P47
- ・タイトなアップとシニヨンのポリュームが好バランス！ P48
- ・毛先を巻くとポリュームが出るので、パレットで押さえてメリハリを P51

3-3 その他

非基礎的外来語は、これまで見たようにほとんどが形容動詞で、ナ形で連体修飾、ニ形で連用修飾するものであった。他には次のようなものがあるが、これらはファッション用語とも言うべきもので、上述の「デイリー」や「ポリューミー」のような一般語彙化は考えにくいものである。

- ・フレンチシックな小物使いで、おしゃれな映画のヒロインみたいに P38

・ トラッドな赤 P41

さて外来語の最後に、英語の副詞と形容詞をもとにして、日本語の形容動詞活用語尾を付けずに述語となっている例をまとめて確認しておこう。

- ・ ハーフアップを編み込んで、ファーのシュシュをオン。P46
- ・ 最後に結び目にリボンバレッタをオン。P46
- ・ カチューシャをオン。P49
- ・ パープルのヘアバンドを先につけ、その上からクロスさせるように黒のバンドをオン。P51
- ・ 「ロングヘアはダメージケアがマスト。」 P46
- ・ 「ストールを巻く時は帽子アレンジで首回りをすっきりさせるのがマスト」 P49
- ・ 「薄いカットソーにさっとファーのコートをはおる、このバランスが可愛いよね」。女度の強いレオパード柄アウターは、甘めに着ちゃうとややトゥーマッチ。ダンガリーやスキニーなど、ボーイズアイテムとミックスして着るのが、いちばんおしゃれでいちばん簡単！ P29

オンは、「スイッチ、オン。」「2打でオン（した）。」のように電気やゴルフですでに定着して使われている外来語であって、形としては誰しも見聞きしているものである。上のファッションの例は、意味的には「装着」くらいに考えられるけれども、用例を見る限りでは「髪にある程度の大きさの飾りを付ける」ということで、(1)装着物と(2)装着先に制限が考えられる。Web上のショッピングサイトやブログでは「ブローチを胸元にオン」「プレスレットを手首にオン」の例も複数件確認できる。(2)の制限は緩そうだが、将来的に(1)の制限が取れて「ゼッケンを子供の体操服にオン」とでも言うようになれば、一般語化したことになろうか。

次のマストは英語出自だが、助動詞の他に名詞と形容詞の用法を持っている：

- ・ (名詞) This book is a must for golfers. この本はゴルフをする人にとって必読書だ。
- ・ (形容詞) must books on Japanese art 日本美術の必読書

「ガーリー (な)」について3-2で考察したように、対応する英語があるからといって、それをそのまま外来語として取り込んだとは考えにくい場合がある。このマストを前項に持つ「マストアイテム」という語は、例えば毎年刊行で流

行語類を多く収録する『現代用語の基礎知識』（自由国民社）で1971年版以降を確認したところ、1991年版に初めて「必要なもの。必需品。“ジーンズはアメリカンスタイルのマストアイテムだ”というように使う。」という語釈と用例で掲載された^(注6)。そして「マスト」は15年遅れて2006年版から「しなくてはならないこと。必須事項」として載るようになり、ファッション用語としてのマストアイテムからの分離・独立が考えられる。アイテムという限定が外れたことで、挙例のようにモノのみならずコト（行為）をも表現できるようになった。「ダメージケアがマスト」と表現する前は「～が必須」「～が必要」「～が大切」などが使われていたとすると、なぜそれは外来語と入れ替わったのか。表現効果の違いについては検討が必要であろう。

最後の「トゥーマッチ」は調査資料からの用例が1つしかなく、新語を随時追加収録していく『デジタル大辞泉』（小学館、年3回定期更新）にも掲載が無いが、ファッション関係の使用例がwebから拾えるので2つ記しておく（2010/12/17閲覧）：

- ・その（AVRIL GAUというブランドの ローファーウエッジパンプスの）コンセプトは「コンテンポラリーシック」で、トゥーマッチ過ぎないエレガンスが特徴です。（<http://store.united-arrows.co.jp/shop/by/goodssale.html?gid=822128&cid=&pno=1>）
- ・（缶バッジピアスは）両方付けるとトゥーマッチなので片方だけ。カジュアルなファッションに合わせます。（<http://blog.parco-city.com/blog-across/2008/10/>）

4 まとめ

- (1) 外来語のうち、5拍以上で略語になるものは3拍に短縮される。「アクセサリー」「コーディネート」というファッションにとって必須の語が「アクセ」「コーデ」となり強い造語力をもって複合語を多く構成している。
- (2) 「リッチ」「モード」など標準語形だが特殊な意味用法を持つものがある。
- (3) 「ガーリー」「マニッシュ」など基礎的外来語とみなせない、原語（英語）の意味や対義関係を反映していそうにない語が使われている。
- (4) 「-y（な）」形の和製英語（形容動詞）の創出。

(5) 「マスト」「トゥーマッチ」などファッション業界用語起源の可能性。

5 おわりに

本稿冒頭に掲げた用例中の語句では、「デイリーに」と「コーデ」が女性誌に特徴的な外来語である。それが、読者が話し手になった場合に使用語彙化して自然と出てしまったとき、その言葉が女性語であるはずだ、という見込みを本稿では述べた。いわば「気づかない女性方言」である。今回は同じ例中の「好感度満点」といった漢語や「愛され感たっぷり」という場合の和語については触れないけれども、特に後者は男性の発話・男性の読み物には現れないものだと考えられるので、次稿では語の形や意味、あるいは意味分野の偏りといった面からシンプルに特徴をつかみ出したいと考えている。

最後に、学生教育的な視点で一言付け加えておこう。「女性語」という用語は、社会における性役割・性差別を論ずる場合の一つの材料として登場することが多いが、本稿はそういったジェンダー研究とは距離を置く立場である。言語学は、一見混沌とした言葉がシステムティックに存在しているその様相を解明してみせることで異なる時空にある人間同士の理解を助け、人間社会に貢献する分野であろう。それは全ての変異をそのときそこに在るままに把握し、純粹に記号の体系のなかでどのような機能を担って存在しているのかを追究するものである。それをイデオロギーと絡めてみたり、言葉の背後に思想を読み取ろうとしたりすると、もうそれは言語学ではない、別の学問である。言語を何かの「手段（判断材料）」として構築した分野と言語学は、表面的には接点をもつけれども、深いところで結局は相容れない。そういう言語学の立場に批判的な立場もあるが^(註7)、言語論（日本語論）は言語学だけのものではないのだから、各分野がそれぞれ言語問題をその学問体系にきちんと位置づけなければいいのである。

【注】

- 1 小林千草『女ことばはどこへ消えたか?』（光文社、2007年）には、現代までの研究史のまとめと著者による女ことば（言語行動）分析がなされている。
- 2 尾崎喜光「日本語の男女差の現状と評価意識」『日本語学』23-7（明治書院、2004年）、遠藤織枝「女性語」『日本語学研究事典』（明治書院、2007年）

- 3 『三省堂国語辞典』(第6版、三省堂、2008年)など新しい外来語を積極的に取り入れる方針のものを参照し、一般定着度の目安とした。ちなみに同書は「バワハラ」「ピンキリ」「オール」など俗語的外来語も収録し、「アクセサリー」については語釈の中に「アクセ」と記している。辞書により記載情報の力点が異なることについては、拙稿「現代国語辞典の特色」(『総合人間科学』4、2004年)参照。
- 4 澤田田津子「日本語教育のための基本外来語について」『奈良教育大学紀要』42-1(人文・社会)、1993年
- 5 『e-プログレッシブ英和中辞典』(小学館)等による。これは*The Oxford English Dictionary*(1989年刊行の2版を参照した)の記述を踏まえていると考えられる。ただし、『英和ファッション用語辞典』(中野香織監修、研究社、2010年)には「girly frill ふりふりのフリル。★girlyは「女の子っぽい」の意」を掲載する。同書のまえがきには和製英語を排除したむね記されている。
- 6 p.1327「1991年外来語略語年鑑」堀内克明執筆。「特に本年度版から外来語の欄ではその年に初めて使われた語を用例つきで載せるという方針を強化することになった」という注記がある。その後1997年には語釈のみとなったが、2003年版では「難解ファッションキーワード話題学」(大塚常好執筆)という新設コーナーにおいて「“絶対持っておきたいモノ”といった意味(must=〇〇しなければならない)。買うのが常識、現代人の必須・必需品といったニュアンスを含む。雑誌などが“この夏のマストアイテム!”などと、オススメ商品を紹介するケースが多い。ここ2~3年でまたたく間に日常語化した和製英語(後略)」という記述になり、ファッション用語という括りが明示される一方、その用例には意味用法の拡大を見ることがもできる(下線はいずれも筆者による)。
- 7 中村桃子『ことばとフェミニズム』(勁草書房、1995年)、pp.153-230